



# 令和5年度 水稻生育診断情報 No.4

(令和5年7月27日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は 8/22 頃の予定)

## 現在の生育状況

◎作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年並、茎数は少ない。葉色は「みずかがみ」では平年並、「コシヒカリ」では平年よりやや薄い。「みずかがみ」「コシヒカリ」とも出穂期は、ほぼ平年並である。

◎県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、早生品種の出穂期は平年並～やや早く、中生品種の幼穂形成期は平年よりやや早く迎えている。

## 管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！ 水深は3cmから5cmの浅水で管理する。

◎穂もち防除を適切に行う。発生予報注意報第2号参照 (<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5412639.pdf>)

◎斑点米カメムシ類の防除は、ほ場周辺に小型カメムシ（アカスジカスミカメ等）が多い場合は乳熟期頃（出穂7～10日後）に行い、大型カメムシ（ホソハリカメムシ類）が確認できるほ場では糊熟期頃（出穂10～20日後）に行う。

## 1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根气象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
6月	下旬	平年並	やや高い	かなり少ない	やや多い
7月	上旬	高い	やや高い	多い	少ない
	中旬	高い	やや高い	多い	かなり少ない

注) 気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃>:かなり高い(低い)

日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)

降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 近畿地方1か月予報(7/22～8/21までの天候見通し)【大阪管区气象台7月20日発表】

- 向こう1か月の天候は、平年と同様に晴れの日が多い。
- 気温は高く、期間の前半はかなり高くなる可能性がある(高い確率60%)
- 降水量はほぼ平年並の見込み(少ない確率40%、平年並と多い確率ともに30%)
- 日照時間はほぼ平年並の見込み(多い確率40%、平年並と少ない確率ともに30%)。

## 2 生育状況

【農業技術振興センター 水稲作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 「みずかがみ」「コシヒカリ」ともに草丈は平年並、茎数は少ない（7月10日）。
- 葉色は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年より薄く、主稈葉数は「みずかがみ」は平年より0.2枚多く、「コシヒカリ」は0.3枚多い（7月20日）。
- 出穂期は、「みずかがみ」では平年より1日遅い7月23日、「コシヒカリ」は平年と同じ7月27日であった。

表1 令和5年(2023年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m <sup>2</sup> )				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	80.5	80.1	100	93.3	423	519	81	500	40.9	40.7	100	41.9	12.6	12.4	0.2	12.8
	コシヒカリ	81.5	80.7	101	89.7	484	562	86	545	35.8	37.8	95	38.9	12.0	11.8	0.2	12.4
	きらみずき	65.6	-	-	-	549	-	-	-	37.3	-	-	-	11.7	-	-	-
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	38.0	38.3	99	41.0	13.4	13.2	0.2	13.0
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	34.2	38.3	89	41.2	13.3	13.0	0.3	13.2
	きらみずき	73.2	-	-	-	491	-	-	-	37.3	-	-	-	12.9	-	-	-

※移植日：5月10日(播種日：4月21日)。栽植密度：18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数：3本/株

※「みずかがみ」「コシヒカリ」の平年は過去10年平均(平成25~令和4年)の値。

※「きらみずき」は令和5年から調査開始

### 7月20日現在の生育状況



みずかがみ



コシヒカリ



きらみずき

表2 水稲作況調査 生育ステージ(7月20日時点)

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月30日	6月29日	1日遅い	6月28日
出穂期	7月23日	7月22日	1日遅い	7月21日
成熟期	未	8月25日	-	8月24日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月5日	7月3日	2日遅い	7月2日
出穂期	7月27日	7月27日	同日	7月26日
成熟期	未	8月31日	—	9月1日

品種：「きらみずき」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月14日	—	—	—
出穂期	未	—	—	—
成熟期	未	—	—	—

※移植日は5月10日(播種日:4月21日)、栽植密度18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数3本/株。

※「みずかがみ」、「コシヒカリ」の平年は、H25～R4年(10年間)の平均値。

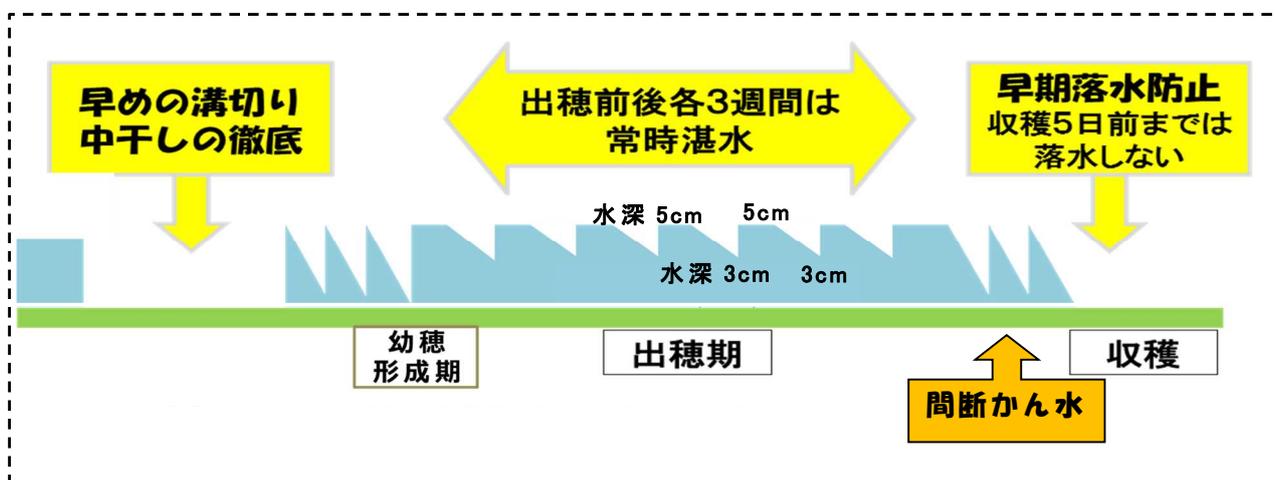
※「きらみずき」はR5年から調査。

### 3 今後の管理

#### (1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う(図1)。
- 湛水管理では、水深3cm～5cmの浅水管理を行う。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる(図2)。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



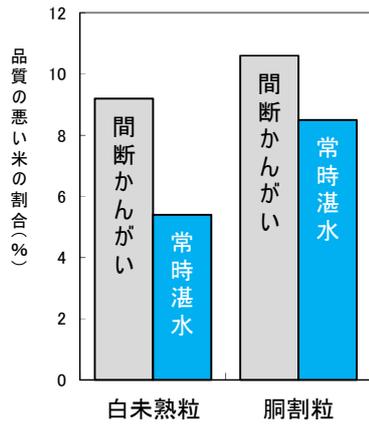


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係  
(滋賀農技セ 2006年「コシヒカリ」)

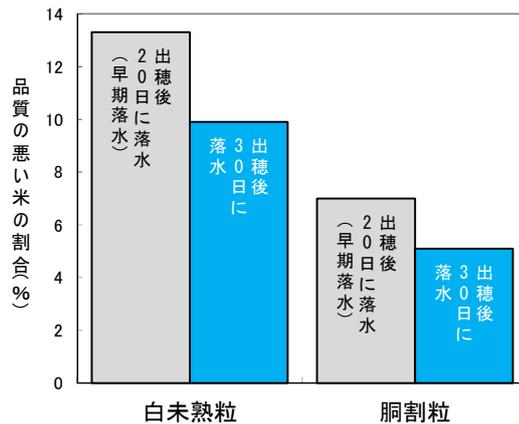
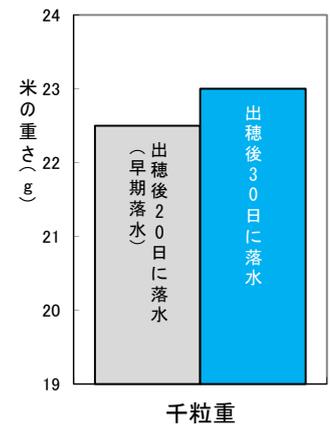


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係  
(滋賀農試湖北分場2004年「コシヒカリ」)



出穂前後の常時湛水で  
白未熟粒、胴割粒が減ります

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、  
胴割粒が減り、収量も増加します

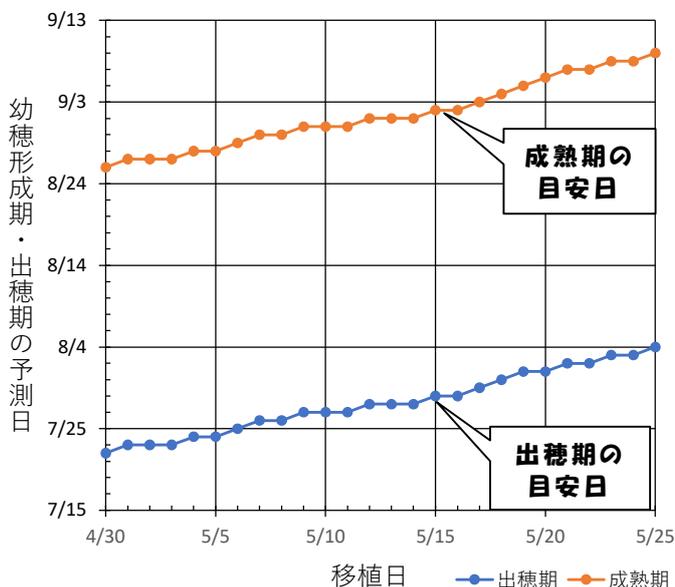
## (2) 適期収穫

■ 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

■ 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(粃)の色をしっかりと確認し、黄化粃が85~90%になった頃に収穫する(図3)。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

【参考】「コシヒカリ」の出穂期  
および成熟期の目安日



## ☆過去10年の登熟日数

品種名	出穂期から成熟期までの日数
みずかがみ	32~37日
コシヒカリ	32~39日

※H25年~R4年水稻作況調査データより

注) 農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)における「コシヒカリ」の稚苗移植の予測。  
近江八幡市安土町大中より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる

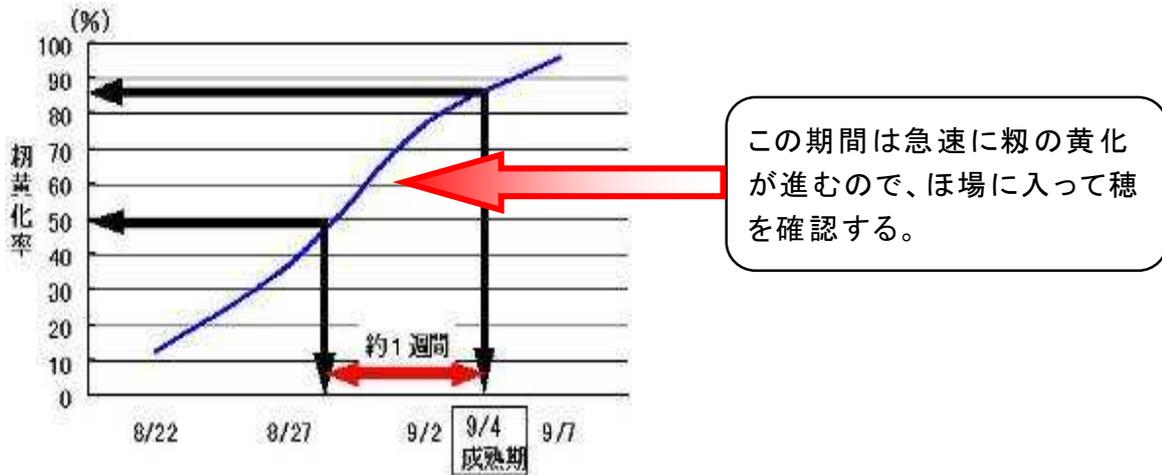


図3 成熟期前の籾黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

### (3) 病害虫防除

7月19日発表の「病害虫発生予報第7号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/>) または  
県HPの 組織から探す>農政水産部病害虫防除所>発生予察>発生予察情報>病害虫発生予報を参照

予報第7号より抜粋

#### ① 穂いもち【発生時期: 平年並、発生量: 多】

→ **注意報第2号**「いもち病の防除対策は確実に！」を確認しましょう！

- 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。
- 穂いもちは、ほ場の状況(水稻の生育やいもち病の発生状況)をよく確認し、適期に防除する。
  - ・ 粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
  - ・ 穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
  - ・ 粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。

#### ② 紋枯病【発生量: 平年並】

- 前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15%以上。
- 病勢進展初期(幼穂形成期～穂ばらみ期)に株元までよくかかるように薬剤を散布する。
- 粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。

#### ③ 斑点米カメムシ類【発生時期: 平年並、発生量: 平年並】

- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので早急に除草する。
- 雑草管理が不十分で、イネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。

- ほ場周辺の畦畔や雑草地にカスミカメムシ類が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除を実施する。
- 穂揃期に大型の斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂16日を中心に10～20日後）にも防除を実施する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。散布時期は乳熟期（出穂7～10日後）とするが、一部薬剤は散布時期が異なるので注意する。

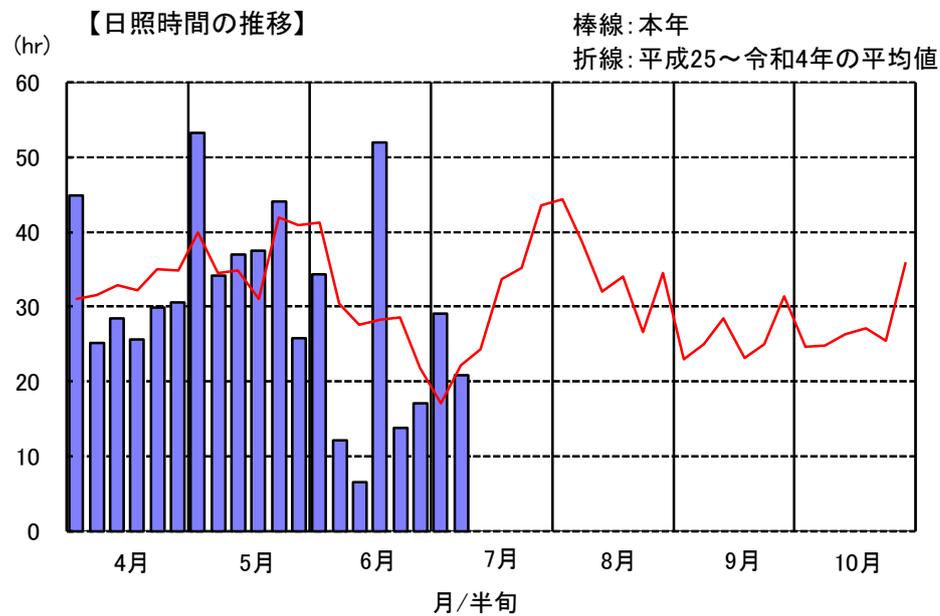
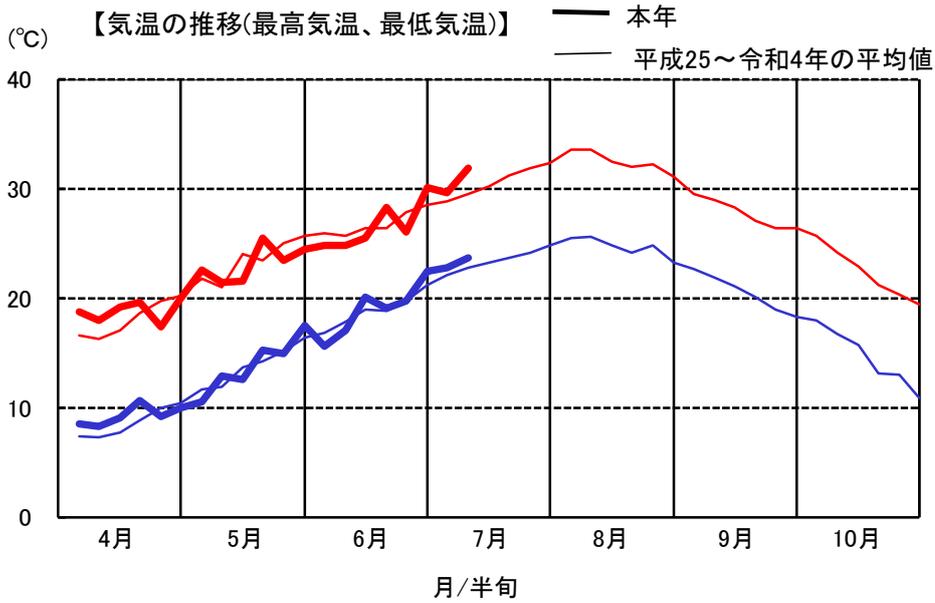
#### ④コブノメイガ【発生時期：平年並、発生量：平年並】

- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上、または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。

#### 【参考サイト】

農業技術振興センター	<a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/">http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/</a>
病虫害防除所	<a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/">http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/</a>
彦根地方气象台	<a href="http://www.jma-net.go.jp/hikone/">http://www.jma-net.go.jp/hikone/</a>
早期天候情報	<a href="https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/">https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/</a>

# 令和5年(2023年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

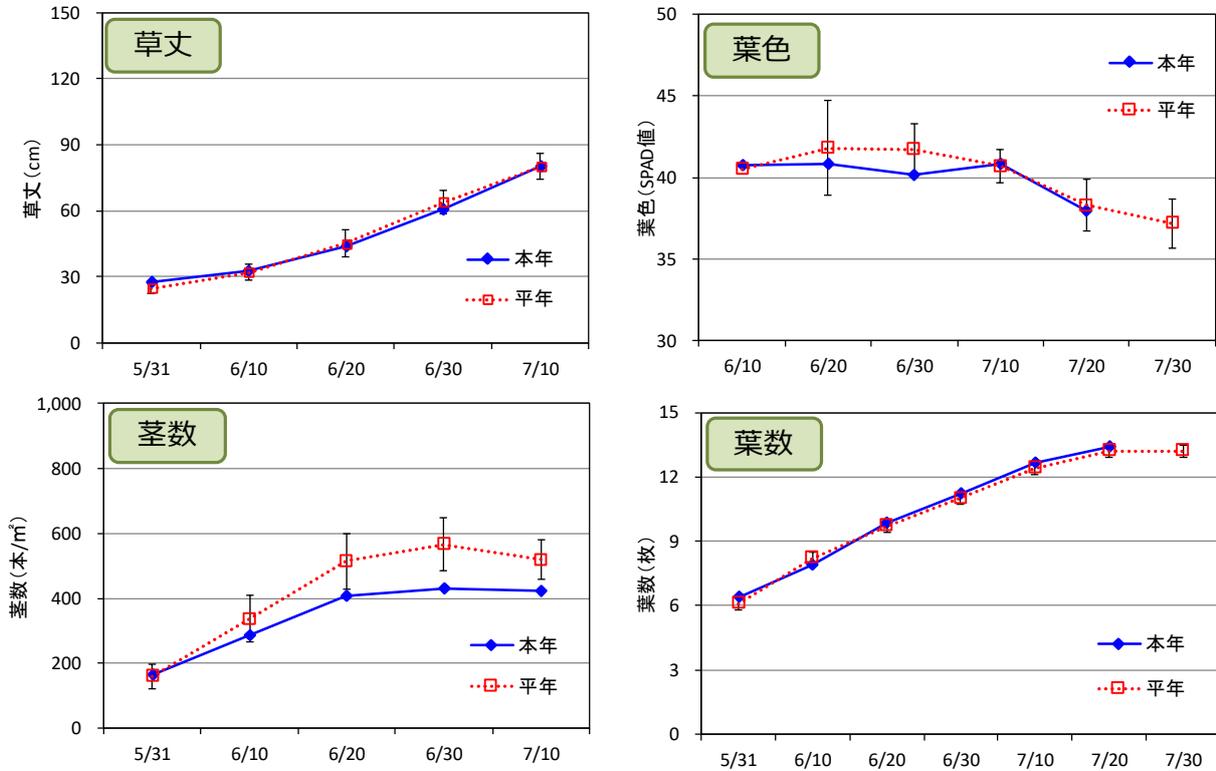


# 令和5年(2023年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

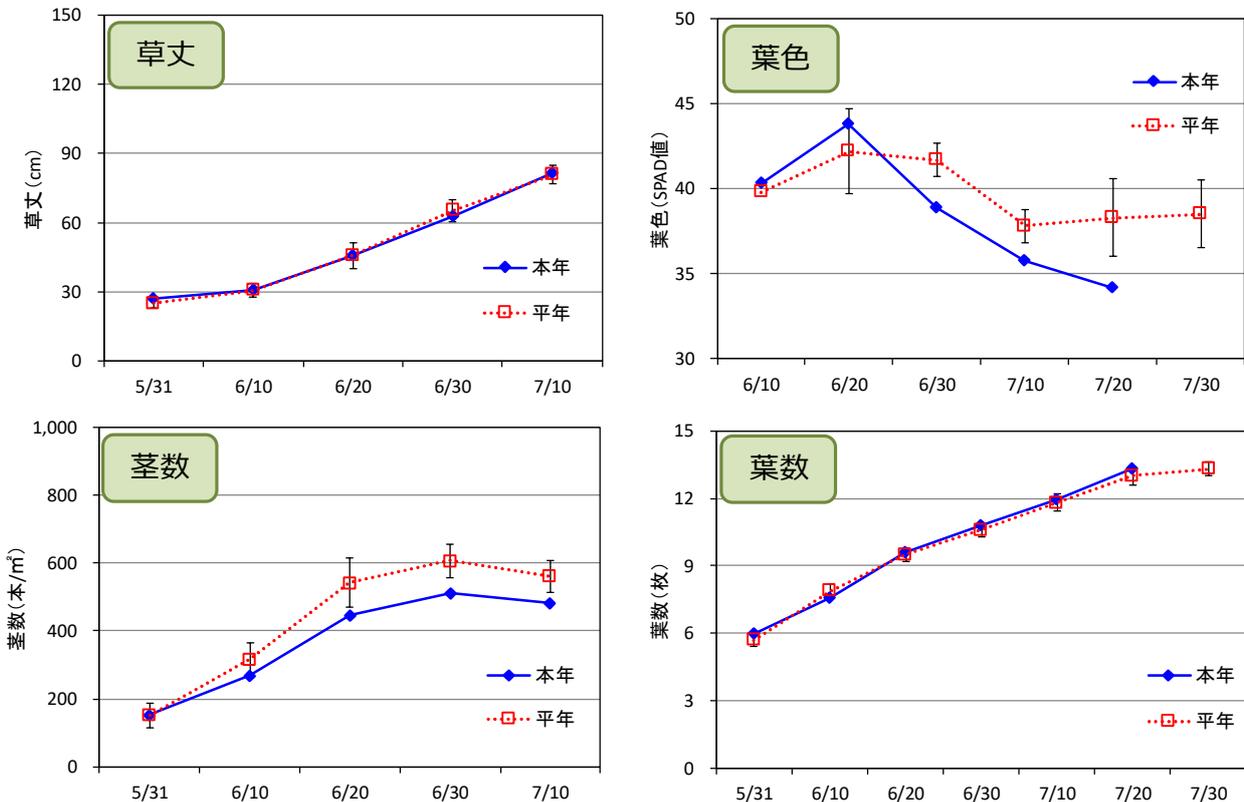
## みずかがみ

播種: 4月21日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



## コシヒカリ

播種: 4月21日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株



# きらみずき

播種: 4月21日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/㎡、植付本数: 3本/株

